

【別紙様式2】

平成28年度茨城県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表(全日制)

目指す学校像	歴史と伝統を誇る重厚な校風の中で、文武両道の精神を継承し、豊かな教養と英知を備え、地域社会をはじめ国際社会に貢献しうる有為な人材の育成に努める。					
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標		達成状況		
<p>本校に相応しい「文武両道」を目指しながら、生徒の希望進路の実現に向けて継続的・組織的指導を実践することにより、平成27年度卒業生は現役のみで国立大合格者数で135名と過去最高を記録することができた。それと同時に、東大をはじめとする難関大学に合格者を出すことができた。また、浪人生が医学部医学科に合格した。</p> <p>一方、射撃部、ソフトテニス部が全国大会、陸上競技部は関東大会出場を果たした。</p> <p>本校の三大プロジェクトである「Rプログラム」「筑波大学研究委員会」「R-MASTプロジェクト」に加えて、文科省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定され、理数系教育を充実させて、自ら課題を設定し探究していく力を伸ばしていく活動も軌道に乗ってきた。今後は、外部機関との連携にさらに積極的に取り組んで探求成果を深めていく必要がある。</p> <p>教員の側としては、積極的な「授業公開」を実施し、創意工夫を生かした指導と教科のスタンダードな指導法の確立と継承に努め、授業力の向上をさらに目指す。</p>	個に応じた指導の充実を図り、「確かな学力」を育む	(1)自ら学び、自ら考える「確かな学力」を育む。 (2)生徒の主体的活動を促進し「生きる力」を育む。 (3)生徒一人一人の道德心を培い「豊かな心」を育む。 (4)「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業等を活用し、グローバルに活躍できる人材の育成を図る。 (5)特色ある学校づくりを進めることで、地域から信頼され期待される学校づくりに努める。		A		
	キャリア教育の充実を図り、一人一人の希望進路の実現に努める	(1)Rプログラムに基づく系統的・組織的なキャリア教育により、将来の目標をより明確にし、学習意欲の向上に繋げる。 (2)丁寧な個別面談を行い、生徒一人一人の「進路設計とその課題」を明確にし、最後まで諦めずにチャレンジし続ける心を養う。 (3)学年間・教員間の連携を深め、広い視野から組織力・協働力で効果的に進路指導を進める。 (4)SSH事業を通して、生徒の能力と適性に応じた希望進路の選択の幅を広げる。 数値目標：東大・京大及び国立大医学部医学科複数人合格、筑波大25人以上合格、国立大100人以上合格(難関12大学の割合の増加)		B		
	豊かな心を育む教育の推進	(1)規範意識や道德心の育成等による豊かな心の育成に努めるとともに、「いじめ」を絶対に許さないという意識の醸成に努める。 (2)教員間の協働態勢・共通理解による指導を推進し、教師と生徒の信頼関係の構築に努める。 (3)生徒の心情の理解を深めるとともに問題行動の早期発見・早期解決に努める。		A		
	特別活動及び学校行事の充実	(1)文武両面において、前向きに取り組める生徒を育成する。 (2)ホームルーム活動、部活動及び生徒会活動を充実させることで、生徒の主体性を育成する。		B		
	グローバルに活躍できる人材の育成	(1)「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業を通して、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図る。 (2)国際交流事業を推進し、異文化を体験することによって、グローバルな視野を広げる。 (3)英語によるディベートの推進。英語によるプレゼンや英語検定の促進。		B		
	評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	個に応じた指導計画の改善充実	生徒の興味・関心を引き出し、意欲の向上に繋がるような学習指導計画を作成する。		B	B	様々な場面でアクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒たちが主体的に学べる環境の整備に努める。
		生徒の興味・関心に応え、意欲の向上に繋がるような教材等の選択・活用、授業展開の工夫改善に努める。		B		
	校内研修の改善充実	公開授業の実施等により学習指導の質的向上を目指した校内研修体制を改善する。		B		
		筑波大研究委員会を核にした指導力向上と学校力のレベルアップを図る。		B		
指導に生かす評価の改善充実	指導の過程における評価と多面的な観点からの評価を重視する。			B	B	
	指導計画・指導方法等の改善に生かす評価を重視する。			B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	1年 現代文では漢字力と語彙力を、古典では文法・句法を中心に、基礎的力を確立させる。	計画的に漢字と古文単語の小テストを実施し、大学受験にも対応できる語彙力をつけさせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦・国公立二次試験等における小論文指導について、今までの蓄積を教科内で共用し、研修をはかる。 ・学習指導要領の改革に対応しうる教科指導をめざし、指導法を工夫・向上させる。
			現代文の授業において、論理的に文章を読解する姿勢を育てる。	A		
			文法と句法を段階的に学ばせ、古典に対する基礎的力を育成する。	B		
		2年 現代文・古文・漢文のそれぞれの応用力を育成、進展させる。	各分野のテキストに年間を通して取り組み、基礎から応用へのステップアップを図る。	A	A	
			古文単語小テストを定期的実施し、古語力を高める。	A		
			古典分野においては、大学入試を意識した課題を与えることで、徐々に大学受験に対応できる学力を身につけさせる。	B		
		3年 現代文、古文、漢文の受験に対応した学力を完成させる。	受験を意識した授業の実践を心がける。	A	A	
			小論文や評論に対応した、幅広い知識を身につけさせる。	A		
			知識問題について的小テストを定期的実施し、入試に対応する実践力を高める。	A		
教科	地理歴史	授業中心主義を徹底し、学力の向上を図る。	シラバスに基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。	A	A	授業公開や教科会を通じて相互に指導方法の情報交換を行う必要がある。
			授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。	A		
			他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組みせ、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。	B		
			定期考査・校内実力テスト・校外模試の成績分析を通じて、学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り、結果を生徒へフィードバックする。	A		
			教科担当者が必要に応じて個別面談・個別指導を行い、指導・助言を通じて学習効果の向上を図る。	B		
		興味・関心が持てる授業に努める。	資料集など副教材の使用法を工夫し、生徒の興味・関心を喚起し、理解の進化に努める。	A	A	
			板書事項、説明内容・方法等について、教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。	A		
		授業公開や教科会等を通じて、相互の指導方法について情報交換を行う。	B			
		センター試験で高得点を達成するとともに、難関大学に合格できる学力をつける。	過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し、学習指導の改善を図る。	A	A	
教科	公民	授業中心主義を徹底し、学力の向上を図る。	シラバスに基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。	A	A	授業公開や教科会を通じて相互に指導方法の情報交換を行う必要がある。
			授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。	A		
			他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組みせ、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。	B		
		興味・関心が持てる授業に努める。	資料集など副教材の使用法を工夫し、生徒の興味・関心を喚起し、理解の進化に努める。	A	A	
			板書事項、説明内容・方法等について、教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。	A		
		授業公開や教科会等を通じて、相互の指導方法について情報交換を行う。	B			
		センター試験で高得点を達成するとともに、難関大学に合格できる学力をつける。	過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し、学習指導の改善を図る。	A	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価			次年度(学期)への主な課題
教科	数学	1年 様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意欲を高め、学習習慣および高等学校数学の基礎を固める。	日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図る。	A	A	A	基礎学力の充実と上位者のさらなる学力向上
			授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。	A			
			定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	B			
		2年 受験科目として科目の重要性を意識させ、きめ細かい指導の下、授業内容を確実に定着させる。	生徒の理解を高め、学習に取り組みやすいように授業展開や進度の工夫をする。	A	A		
			平常時及び長期休業中の課題への取り組みを徹底させる。	B			
			授業進度に合わせ定期的に節末テストや小テストを実施し、基礎学力向上を図る。	A			
		3年 生徒の進路実現に向け、受験に対応した学力を完成させる。	受験を意識した授業の実践に心掛ける。	A	A		
			各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。	A			
			各分野の問題演習を行うことにより、受験に対応できる能力を養う。	B			
教科	理科	授業内容を深化させ、生徒の基礎学力の向上を図る。	シラバスに沿った授業展開を心がけ、担当者間のコミュニケーションを図り計画的な指導を行う。	A	A	A	・次段階として、科学への興味や関心を高めるだけに留まらず、科学を好きになり、学ぶ楽しみを育む学習活動の展開と工夫改善が課題である。
			生徒にとって適切な内容・分量の課題を行わせることや、小テストを通して、学習習慣の確立を図る。	A			
			必要に応じ、各科目の担当者が個別の面談・指導を行い、学力の向上を図る。	A			
		興味・関心が持てる、授業展開に努める。	観察・実験をバランスよく実施し、実物に触れることにより、興味・関心を喚起し、理解の深化に努める。	A	A		
			SSH 事業と連携し、日常現象と科学との関連を取り上げることにより、科学への興味・関心を高める。	A			
			PC を利用したシミュレーションや DVD などの視聴覚教材などを活用し、授業への興味・関心を高める。	A			
教科	保健体育	各種の運動の合理的な実践及び相互理解・尊重の態度を育む。	自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。	A	A	A	授業中における安全管理や怪我がおきたときの対応。 実生活で学んだことを役立てるようにする。 視聴覚教材の使用。
			各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ、解決できる能力を身につけさせる。	A			
			各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ、コミュニケーション能力を育てる。	A			
			熱中症対策、怪我や安全管理に留意して、授業を行う。	A			
		健康に対する意識・実践力	健康に対する知識や実践力を身につけさせ、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。	B	A		
			社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について、課題の解決に役立つ基本的な知識を理解する。	A			
教科	芸術	芸術への理解	芸術の歴史を学び、芸術する喜びを味わう。	A	A	A	生徒一人一人の技術面での指導を深める。
			表現方法の会得と感性を磨く。	B			
			芸術を通して、自己のグレードアップをはかる。	A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	外国語	【1年】英語に対する意欲及び興味・関心を高め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域について基礎学力の定着を図る。	毎週小テストを実施し、基本的な語彙を身につけさせる。	A	A	<p>・文法事項の定着のために現在行っている小テスト等を継続する。</p> <p>・リスニング力強化のために、課題や授業での取り組みを工夫して行う。</p>
			基本的文法事項を習得させ、英文を読む力と書く力を培う。	B		
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。	B		
			ALTとのティームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	A		
			英検受験を奨励し、準2級および2級の合格を目指す。	A		
			ディベート活動につながる英語の力を身につけさせる。	A		
		【2年】基礎力の増強および応用力育成・向上に努め、生徒をより高い目標へと鼓舞する魅力的なわかる授業を展開する。	小テストを継続し、基本的な語彙を定着させる。	A	B	
			基本文法事項に習熟させ、英文を読む力と書く力を高める。	B		
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。	B		
			ALTとのティームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	A		
			英検受験を奨励し、2級および準1級の合格を目指す。	A		
			グループ活動を実施し、英語の運用能力と思考力を身につけさせる。	B		
【3年】生徒の希望進路の実現に向け、受験に対応した学力を完成させる。	平常の授業において、受験に対応した総合的な学力を高めさせる。	A	A			
	各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。	A				
		A				
教科	家庭	家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得	実生活に即した実践的・体験的学習を通して、家庭のあり方や家族関係についての基礎基本を習得する	B	B	<p>実生活で生かせるように事例や演習の内容を精選する。また、生活を改善しながら取り組む姿勢を身につけられるよう指導を工夫する。</p>
		家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力の育成	生活の中から課題を発見し、解決するための事例研究を行い、様々な討論法により自己表現力の向上と、自己理解を通しての課題解決を図る	B		
		生活の充実向上を図る力と実践的な態度の育成	具体的な事例や演習の充実を図り、生徒が主体的に取り組む態度の育成を図る	B		
教務	円滑な教育活動の推進	観点別評価の実施を行う		B	B	<p>広報活動をさらに充実し、中学校や地域との連携を深める。</p> <p>校内研修を充実させ、さらなる教育活動の充実を図る。</p>
		各部・各学年との連絡調整機能を強化し、教育活動の円滑化を図り教育目標の達成に努める。		A		
		授業時間確保のため、時間割の円滑な運営に努める。		B		
	SSH運営をさらに充実させる教育課程の編成	生徒の多様な進路に対応できる教育課程の編成に努める。		B	B	
		SSHの研究成果を生かす教育課程の編成を行う。		A		
		いばらき教育月間に学校公開を行い、地域に公開する。		A		
	地域、保護者との連携の強化	ホームページをさらに充実させることにより、さらに学校教育活動の公開に努める。		A	A	
		中学校等の訪問や、学校説明会により中学校との連携を深める。		A		
		生徒、保護者へのアンケートを実施し、教育活動に生かす。		A		
	生徒指導	基本的生活習慣の確立	登校指導による挨拶の励行と、遅刻指導の充実に努める。		A	
制服の正しい着用を徹底させる。				A		
教育相談体制の充実		カウンセリング事業の継続と、心の教育相談体制の充実に努める。		A		
安全教育の充実	登下校指導による交通安全指導と、交通安全講話を通して意識を高めさせる。		B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の主体的進路選択への支援	総合学習の時間や大学・企業訪問、先輩の語る仕事を聴く会、大学研究会などを通して、3年間を見通した計画的な進路指導を行う。	A	A	授業の質をさらに高めるとともに、教科内研修を実施して、教科指導力向上させる。	
		進路講演会や学年集会などを通して、生徒の進路意識を高め、進路実現のために何をなすべきかを考えさせる。	A			
		生徒面談や保護者面談を通して、生徒一人ひとりの希望や適性を踏まえた生徒に寄り添った進路相談を行う。	A			
		進路関連資料の精選と提示の工夫に努め、生徒にとってより利用価値の高い進路指導室にする。	B			
	生徒の希望進路実現のための支援	生徒が第一志望校に合格できるよう、授業の質をさらに高めるとともに、教科内研修を実施して、教科指導力向上に努める。	B	A		
		より適切な進路指導ができるよう模試分析会や進路検討会、出願検討会を適宜実施するとともに、進路指導部・学年・教科等それぞれの間のコミュニケーションの充実に努める。	A			
		添削指導や特別講座(課外)など、難関大学合格を目指す指導を組織的に行うとともに、難関大学入試の指導についての教員の研修を支援する。	A			
		上位層だけでなく下位層の底上げを図る取り組みを実施する。さらに、手薄となる中位層への指導を学年中心に検討し、手立てを講じる。	B			
特別活動	部活動と学業の両立	クラス担任と部活動顧問間で問題のある生徒の情報を共有し、両面から指導する体制づくりを行う。	B	B	・部活動の活性化 ・生徒会行事の充実	
		生徒達の状況を理解し、各部活動の効率化・充実化を図るよう、部活動顧問に働きかける。	B			
		各学年、進路指導部、各部顧問との連携を強化し、学校行事と部活動が円滑に連携できるように努める。	A			
	生徒会活動の活性化	生徒会役員と定期的に話し合いを持ち、安全管理に留意し、学校行事の内容をより良いものにする。	A	A		
		学校行事を通して、色々な生徒達に達成感を味わわせ、生徒会活動への参加意欲を高める。	A			
保健	生徒の心身の健康	学校環境の安全に留意し、点検などを行う。	B	A	日常生活の中でも防災の意識を持たせるように働きかけをしていく。 トイレなども含めて、衛生的で快適な学習環境を整える。	
		保健室の効果的な運用に努める。	A			
		担任・学年・生徒指導部などと協力し、生徒の心のケアの充実を図る。	A			
		性教育講座を通して健全な性への認識を持たせる。	A			
	防災意識を高める	避難訓練をとおして自分の身は自分で守るという意識を持たせる。	A	A		
		竜巻など火災や震災以外の災害にも対応できるようにする。	B			
		防火管理体制を充実させ、防災避難訓練を実施し、非常時に備える。	A			
	学習環境の整備	清掃分担を明確にし、清掃の徹底を図る。	A	A		
		空調設備の適切な管理運営と快適な学習環境作りに努める	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度(学期)への主な課題		
渉外	PTA活動の活性化及び学校と家庭の連携強化	PTA総会や支部総会への参加率を高めるよう努める。	B	A	A	PTA総会・支部総会への参加率を少しでも高めるための工夫をする。		
		PTA役員会や生徒指導委員会・PTA便り編集委員会などの委員会活動を通じて、保護者との連携強化に努める。	A					
		保護者向けの広報活動を積極的に行うとともに文化祭のPTA企画への参加率を高めるよう努める。	A					
図書	図書館の円滑な運営	担当職員間で適切な業務分担を行い、連絡を密にするとともに、授業や課題研究などでの図書館利用の促進に努める。	B	A	A	飛龍館とともに学習の場としての利用拡大を図る。 生徒への更なる広報活動に努め、利便性の向上を目指す。		
		昼休み・放課後の当番制の徹底。	A					
	蔵書の充実と利用の促進	展示レイアウトや図書選びのアドバイスにより利便性の向上を図る。	A	A				
		学年や教科の推薦図書および小論文関係の図書を充実するとともに、生徒の購入希望図書にも留意することで利用の促進を図る。	B					
	図書委員会活動の充実	生徒図書委員研修会への参加による図書委員の資質向上。	A	A			A	他校の委員会活動を参考にするなど、より効率化した活発な図書活動を行う
		日常の係り活動の活発化(カウンター当番・図書館便りの編集・図書館環境の整備など)。	A					
各学年、進路指導部、各部顧問との連携を強化し、学校行事と部活動が円滑に連携できるように努める。		B						
SSH	生涯にわたる主体的な学びの原動力である、持続的な学習意欲や知的な好奇心を高め、未来への飛躍を実現するチャレンジ精神やリーダーシップを育む。	教科・科目を融合した、意外性や新たな発見に富む授業により、持続可能な学習意欲や知的な好奇心を高め、また協働的な探究活動に取り組む事で、チャレンジ精神やリーダーシップを育む。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「白幡探究」(課題研究)等における生徒のパフォーマンス評価を、ルーブリック等を用いて評価する手法を確立する。 ・アクティブ・ラーニングに関する教員間の研修、研究を加速させる。 ・教科・科目を融合させたクロスカリキュラムの開発をさらに充実させる。 ・「白幡探究Ⅱ」における課題研究の進捗をよりスムーズにするべく、1年間の取組の流れが分かるロードマップを作成する。 		
		フィールドワークを行ったり、大学や研究所等の研究者と直接交流することなどを通して、学習意欲や知的な好奇心を高めるとともに、チャレンジ精神やリーダーシップを育む。	A					
	基礎的な知識・技能を確実に修得し、科学的なものの見方・論理的思考力を養い、問題を解決する能力を育成する。	教科・科目を融合した授業や、実験などの様々な実習を含む授業を通して基礎的な知識・技能を確実に修得する。	A	A				
		協働的な探究活動やディベート活動に取り組む事で、科学的なものの見方・論理的思考力を養い、問題を解決する能力を育成する。	A					
	日本人としてのアイデンティティを大切にしながらも、グローバル社会で世界の人々と協働するためのコミュニケーション能力および発信力を身につける。	和算に関する課題研究等の学習を通して、日本人としてのアイデンティティを育む。	A	A				
		地域の小中学生への科学講座等を行ったり、外国の人々と交流したりすることで、様々な価値観を学び、視野を広げ、コミュニケーション能力および発信力を高める。	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、清掃の徹底、容儀指導の徹底、時間厳守、期限厳守等の凡事徹底を図るべく、学年全体として共通認識を持ち、常に生徒状況を確認しながらきめ細かな指導に取り組む。	A	A	A <ul style="list-style-type: none"> 提出物等の期限厳守を中心とした凡事徹底。 課題等について、より一層の各教科間の連携強化。 学習サイクルの定着について確立できる生徒の絶対数を増やすための方策。 より高い教育効果をあげるための行事の精選。 進路に関する情報提供や調べ学習等の充実。
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	初期指導の充実を図り、授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	B	B	
		生徒が授業内容をしっかり定着できるよう、各教科で連携して課題の量を調整するとともに、生徒の課題への取り組みおよび定着が徹底されるように指導する。	B		
		学習記録簿(スタディーレコード)を活用しながら、自主的に計画を立てられる力を身につけさせる。	A		
	進路指導の充実	LHR および道徳の授業を中心として、進路意識が高められるように年間計画を立案し、将来の目標や職業観などを育む指導を行うとともに、2年次の文理コース選択に対して適切な指導を行う。	A	A	
		進路指導部と連携し、適切な時期に適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。	B		
		進路指導部、SSH 委員会、国際交流委員会と連携し、生徒の進路目標設定に意義のある行事を企画・実施する。	A		
心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに、健康的な学校生活を送れるよう、保健部や保護者と連携しながら、生徒個々の問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。	A	A		
第2学年	基本的生活習慣の確立	気持ちの入った挨拶を心がける・時間を守る・清掃をしっかり行う・授業と休み時間のけじめをつける・勉強と部活の切り替えを明確にするなどの凡事徹底を旨とする。	A	A	A 生徒の自学自習を支援する
	進路指導の充実	LHR などを活用し、年間計画に基づいて大学の学部・学科研究をすすめ、進路意識を高める。	B	A	
		進路指導部と連携し、適切な進路情報を生徒と保護者に提供する。	A		
		SSH 部と連携し、将来グローバルに活躍する人材育成に努める。	A		
	学習習慣の確立	家庭学習が十分になされるよう、教科担当と学級担任が連携を図りながら、適切な時期に適切な内容・適切な量の課題を与える。	B	B	
		学習記録簿を使い、学習状況を担任・学年で把握し、平日2時間以上、休日4時間以上の学習時間確保を促す。	B		
	総合学習の推進	SSクラスは探究活動として課題研究に取り組む。SG 組も探究活動を行う。英語によるプレゼンテーションにつなげる。白幡クラスも計画的に前半は修学旅行の事前学習、後半はポスター発表のための準備を行う。	B	B	
	心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し、生徒の問題を早期発見、早期指導に努め、保健部や保護者と連携しながら適切な指導を行う。	A	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第3学年	学力の向上	2年次までの取り組みを継承し、予習・授業・復習のサイクルの重要性を踏まえながら、さらに発展的学習に自主的に取り組む姿勢を養う。	A	A	特編期間の生徒の把握がおろそかになりがちだったので注意すべき。
		各教科で、年度当初から入試を意識した指導を行い、適切な時期に、適切な課題、適切な指示を与えるように努め、学年教科担当者が相互に連携をとりながら、学習意欲の向上を図る。	A		
		定期考査・模擬試験の分析結果を授業に反映させ、授業内容の充実を図るとともに、受験勉強のペース・指針を生徒に示し続ける。	A		
	基本的な生活習慣の確立	最上級生として、後輩の模範となるように規律ある生活に努め、生活面・部活動面において中心となって取り組むように指導する。	A	A	
		生徒指導部と連携しながら、きちんとした服装・頭髪、時間の厳守、挨拶の励行などについて、集会やLHRで継続的に指導する。	A		
	進路指導の充実	生徒の学習成績や適切な進路情報を、学年団で共有し、生徒や保護者に有効に提供できるようにする。	A	A	
		LHR、学年集会、講演会等を通して、入試や志望校の研究に努め、目標に向かって邁進する環境・雰囲気醸成する。	A		
		生徒との面談や保護者との意思疎通を密にし、必要に応じて学年外の職員の協力を得ながら、適切な進路指導ができる態勢をつくる。	A		
	心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し、生徒の問題の早期発見、早期指導に努め、保健部や保護者と連携しながら適切な指導を行う。	A	A	

※評価基準:A, B, Cの3段階で評価する。 A(達成された), B(ほぼ達成された), C(達成されなかった)